

7/27 埼玉県との定期協議

2024年度埼玉県予算編成ならびに行政執行に関する要望を提出しました



埼玉県消費生活課と県生協連常務理事が出席



2024年度県政要望書をお渡ししました



埼玉県生協連多目的室にて、第1回定期協議を開催し、埼玉県から、2022年度生協指導検査実施報告と今年度の計画について報告があり、生協連からは2024年度埼玉県予算編成ならびに行政執行に関する要望について説明しました。

8/27 九都県市合同防災訓練 防災フェア

救援物資配布訓練に参加し、約700人にコープの飲料などを配布しました



多くの参加者に配布しました



防災クイズなど好評でした

志木市のいろは親水公園で防災フェアが開催され、埼玉県と埼玉県生協連との災害時の基本協定に基づき、救援物資配布訓練に参加、飲料やクラッカー、ウェットティッシュを配布しました。コープみらいによる防災クイズや段ボール製の簡易トイレ体験も好評でした。

7/18 第59回 埼玉県消費者大会 プレ学習会

「信じる人、信じない人の心理～消費者被害を心理学から考える～」をテーマに学習



講師の西田昭昭さん

埼玉会館会議室およびオンラインで開催、会場51人、オンライン75人、計126人が参加しました。詐欺・悪徳商法やマインドコントロールについての研究で著名な立正大学心理学部教授の西田昭昭さんに、消費者被害防止について、心理学の視点からお話いただきました。

8/29 埼玉省委託事業 県内消費者団体全体研修会

契約のキホンと最新のトラブル事例を学びました



多くのトラブル事例を熱心に聞きました



久しぶりの活動交流

さいたま共済会館会議室およびオンラインで開催、会場35人、オンライン30人、計65人が参加して、消費生活相談員の鎌田伊津子さんに講演いただきました。スマートフォンを使って二次元バーコードを読み取り、アンケートに答えるなどしながら、多くのトラブル事例を学びました。午後からは、4年ぶりに開催した団体活動交流に33人が参加、6つのグループで日頃の活動を交流しました。

8/8 埼玉消費者被害をなくす会 消費者力アップ学習会Vol.1

「親子で学ぶ インターネットとの付き合い方～保護者としてできること、子どもが気を付けることは何?～」を開催



浦和コミュニティセンター第14集会室およびオンライン（Zoom）にて、下田太一さん（NPO法人青少年メディア研究協会）を講師に迎え、なくす会として初めて、親子を対象とした学習会を開催、5組の親子をはじめ33名が参加しました。「スマホってひとことで説明すると何でしょうか?」の問いかけからはじまり、生活に必要なものが手元のスマホでできるようになったことで、スマホを賢く生活に役立てるためには、親子で話し合うことが大切であることを学びました。

SAITAMA

2023 秋号

No.87 (2023年10月発行)

県内生協の活動を写真で伝える情報誌

写真ニュース



Top News

7/20

埼玉県生協連役員研修会

「みんなが当事者です 介護保険の改定」 ～現状を知ること、いま考えるべきこと、できること～



県内生協から47人が参加しました



講師 村城正さん



実践報告者 飯塚雄大さん

埼玉会館会議室およびZoomで開催、7生協から47人が参加しました。介護保険について、制度の成り立ちから現在に至る状況の変化、2024年改定を含めた今後の方向性、制度の当事者として考えなければならないことを中心に、村城正さん（一般社団法人全国コープ福祉事業連帯機構代表理事）を講師にお迎えし、学びました。

後半は医療生協さいたまが県内で展開している介護保険事業の実践報告として、小規模多機能型居宅介護「くまここ」管理者の飯塚雄大さんにお話しいただきました。

7/30

第38回埼玉県原爆死没者慰霊式

被爆者やご遺族など、130人が参列しました

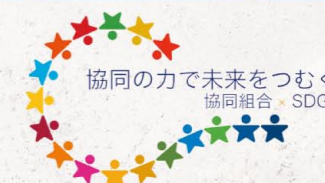


慰霊のこぼれを述べる原明範しらせき会会長



高校生による平和の誓い

さいたま共済会館（さいたま市浦和区）で開催し、「主催者慰霊のこぼれ」では、しらせき会の原明範会長が「核兵器や戦争で人間の命や暮らしを守ることはできません。私たち被爆者は戦争の愚かさや核兵器の残酷さ、非人道性を明らかにしながら、平和の尊さを次世代に語り継いでいく運動を推進していきます」と述べました。平和の誓いを県立熊谷高校の桜井碧人さんと谷平隼都さん、秩父ユネスコ協会の高比良あかりさんより行い、「互いを尊重しあい、対話と協力を通じて平和な社会を築く努力を惜しまないことを誓います」と述べました。





医療生協さいたま生活協同組合

ふれあい生協病院が開院しました



健康増進センター



外来待合室



8月14日、ふれあい生協病院(川口市)が開院しました。これまで埼玉協同病院にあった外来診療の大半が移行し、新たに地域包括ケア病棟ができる予定です。訪問診療の拡大と、訪問リハビリを開始し、地域の病院やクリニック、介護事業所、行政と連携を深め、在宅療養を支援します。また、健康増進センターを拡充し、ワンフロアでスムーズに健診が受けられるようになりました。川口市は県内でも健診の受診率が低く、受診率を引き上げるためにも地域住民の健康づくりの拠点となるよう取り組みます。

生活協同組合コープみらい

埼玉県「さいたま緑のトラスト基金」 「彩の国みどりの基金」に合計30万円を寄付



右から、埼玉県環境部 細野正部長、コープみらい財団 永井伸二郎理事長、コープみらい 三木優美組合員理事

コープみらい財団は、「さいたま緑のトラスト基金」と「彩の国みどりの基金」への寄付に対し、7月18日、埼玉県より感謝状をいただきました。

「さいたま緑のトラスト基金」は、県内の自然や貴重な歴史的環境を守るために活用されています(今回の寄付で26回目・総額1,910万円)。「彩の国みどりの基金」は、森林の保全整備や身近な緑の保全・創出を積極的に進め、「みどり豊かな彩の国」を目指すものです(今回の寄付で15回目・総額910万円)。

コープみらい財団では今後も、地域や行政、組合員と連携した環境保全の取り組みを進めていきます。

こくみん共済 coop〈全労済〉

交通遺児等への寄附 および横断旗の寄贈



感謝状を拝受した 金井本部長

マイカー共済の新規加入実績に応じて寄附を実施しており、2022年度は埼玉県交通安全対策協議会の交通遺児援護基金に17万500円を寄附しました。この取り組みは2016年度からスタートし今回で9回目となり、寄附総額は125万3,600円となりました。また、マイカー共済の見積もり1件につき1本の横断旗を全国の小学校等へ寄贈する取り組みを進めています。

2022年度はこくみん共済 coop本部を通じ13,097本寄贈しました。今後もマイカー共済の推進を通じ、未来ある子どもたちを交通事故から守る取り組みを進めていきます。

生活協同組合パルシステム埼玉

夏休み間伐体験



木を倒したい方向に切り込みを入れる「受け口」づくり



伐採した後の切り口を見つめる子どもたち

パルシステム埼玉では里山保全活動の一環として、8月19日、神川町の「100年の森」で、神川町と認定NPO法人JUON NETWORKと連携し、森林体験イベントを開催しました。3組7名の家族が、間伐体験や間伐材を利用した工作、森林散策などを体験し、森林の循環と保全の意義を学びました。パルシステム埼玉はこれからも、県内諸団体とのつながりを大切に、自然豊かな地域づくりをめざします。

生活クラブ生活協同組合

リフレッシュツアーin埼玉開催

リバーサイドキャンプ場で 福島・栃木組合員家族と交流



長瀬ライン下りの船からピース!

林の中で探検クイズに夢中

7月28～30日、福島第一原子力発電所の事故により放射線汚染の影響を考え、生活クラブ福島・栃木単協の組合員家族にリフレッシュしてもらうための受入れを、今年4年ぶりに実施しました。本庄支部組合員と学生ボランティアが中心となり、レクリエーション、ヨガ、長瀬ライン下り、陶芸、SL乗車、夜はパパ会、ママ会など盛りだくさんのキャンプを過ごしました。「子どもたちが絶えず笑って過ごし、おもてなしの心に感動!」との感想をいただき、組合員交流が深まった2泊3日でした。

生活協同組合・さいたま高齢協

人生100年時代 老後へのオリエンテーション開催



8月6日、三郷市文化会館にて、地域の高齢者を対象に講演会を開催しました。テーマは、人生100年時代、おいしく食べて、安心して外出でき、楽しい老後を送るために「尿意切迫感・頻尿の悩み改善と予防講座」「口腔ケア講座」を行いました。猛暑の中、57名の方が参加されました。高齢になると誰もが心配になるテーマであり、皆さん真剣に講義を聞かれていました。主催は地域の諸団体の連絡会で、生協・さいたま高齢協が事務局を担っています。

埼玉大学生生活協同組合

オープンキャンパスで「受験生サポート」企画を行いました



8月9日、10日、23日の3日間、オープンキャンパスが開催されました。昨年に引き続き、生協学生委員会は大学と協力して「受験生サポート」企画を行いました。学科ごとに先輩と相談ができる「個別相談ブース」と、受験までの勉強方法や参考書などを展示した「展示ブース」で、埼玉大学への進学を目指す受験生を支援することができました。生協の企画には、合わせて1,200人を超える受験生・保護者にご参加いただきました。